

- すさみ町を流れる周参見川の流域では、過去から深刻な浸水被害が発生
- 気候変動の影響により水災害が激甚化・頻発化しており、「流域治水」の取組を推進

流域

- ・流域面積:約60km²
- ・幹川流路延長:約20km



周参見川水系図



周参見川河口付近

気候

- ・南海気候区に属し、年平均気温は約17℃
- ・年降水量は2,200mm(すさみ)であり、日本の平均(約1,700mm)の約1.3倍となる多雨地帯



年降水量の分布図

流域治水

- ・流域全体で、あらゆる関係者が協働して行う「流域治水」の取組を推進
- ・この取組を具体的に実践するため、「流域治水プロジェクト」を早期に策定し、策定後は関係者によりフォローアップを行う



「流域治水」の施策イメージ

過去の浸水被害

- ・過去から深刻な浸水被害が発生しており、近年では、平成23年9月台風12号により床下浸水や主要橋梁等が損傷

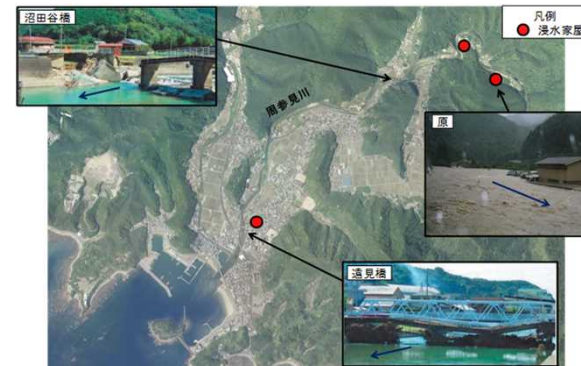
【主要な浸水被害】

発生年月日	災害種別	床上浸水(戸)	床下浸水(戸)
昭和37年7月27日	台風7号	0	114
昭和57年7月5日～8月3日	台風10号	6	80
昭和57年8月6日～8月24日	台風11号	10	77
昭和63年9月22日～9月29日	豪雨	0	47
平成2年9月11日～9月20日	台風19号	0	1
平成13年8月19日～8月23日	台風11号	0	6
平成23年9月2日	台風12号	0	11



昭和37年7月 JR周参見川橋りょう付近

平成13年8月 望見橋より下流付近



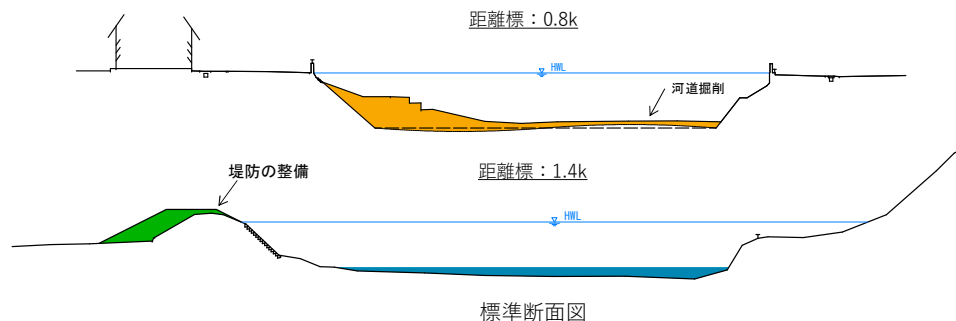
平成23年9月台風12号による被害

- 必要な河川の断面を確保するため、河道掘削や堤防整備等を実施
- 流域の生態系や河川空間の保全にも留意し、整備と維持管理を実施

河川の整備

- ・ 計画対象期間：概ね20年間
- ・ 年超過確率1/10規模に気候変動の影響を考慮した流量650m³/s (基準地点：望見橋) に対して、家屋浸水被害が生じることのないよう整備

【ハード対策】



【ソフト対策】

- ・ 河川情報の収集・発信において、デジタル・トランスフォーメーション (DX) を推進する
- ・ 洪水ハザードマップの作成や水防体制の維持・強化を支援する
- ・ 関係機関や地域住民と連携し、洪水時の避難警戒体制の充実を図る



洪水浸水想定区域図

生態系の保全

- ・ 動植物の生息・生育・繁殖環境が維持されるよう、河川環境に関する調査に基づき、上流から下流、それぞれの特性を踏まえた環境の保全に努める



カマキリ

【確認されている重要種の例】

- 魚 類：カマキリ(VU,CR+EN)、アユ(DD)
 - 底生動物：フネアマガイ(VU)、カワスナガニ(NT,NT)
 - 鳥 類：ミサゴ(NT,NT)、イカルチドリ(NT)
 - 植 物：オオタニワタリ (VU,CR+EN)
- (下線なし:環境省レッドリスト2020、下線:和歌山県レッドリスト2022)



オオタニワタリ

河川の利用

- ・ 河川水は農業用水として利用されており、関係機関と連携し、効率的な水利用を促進する
- ・ 良好な水質や人々に親しまれる「砂の川遊泳場」など河川空間を維持する



砂の川遊泳場

河川の維持管理

- ・ 河床の変動状況や樹木の繁茂状況を継続的に把握し、流水の阻害となる堆積土砂や樹木の除去を行うなど、流下能力の維持に努める